

2011年2月16日

石川県知事
谷本 正憲 様

ストップ・プルサーマル・北陸ネットワーク

共同代表 盛本 芳久（石川県議会議員）
田尻 繁（富山県議会議員）
柚木 光（石川県平和運動センター代表）
堂下 健一（命のネットワーク事務局）
中垣たか子（原発震災を案じる石川県民）

申 入 書

2月4日、志賀原発2号機停止の原因となった原子炉格納容器内冷却器配管詰まりの原因と対策が発表されました。事故の原因は、耐震工事期間の防塵対策が適切になされていなかったという極めてずさんな工事方法にあり、北陸電力も「配慮に欠けていた」ことを認めています。耐震工事は多くの原発で実施されていますが、原子力安全・保安院の事故故障対策室によれば、同様の事故が起きたのは志賀原発1号機と島根原発1号機だけということです。これでは、北陸電力には原子炉等規制法に規定されている「原子炉の運転を的確に遂行するに足る技術的能力」が欠けているのではないかと、「北陸電力には原発運転の資格があるのか」と、あらためて問わざるを得ません。

工事中の防塵対策がされていなかった期間が二ヵ月もあったという、実にお粗末な耐震工事の実態が、今回の事故発生で初めて明らかになったわけですが、今までにも異物混入による事故・トラブルが繰り返されています。これでは、他にも同様の「配慮に欠けた」工事や点検が行なわれているのではないかと、危惧せざるを得ません。

しかも、2月4日、北陸電力が「原因と対策」について報告書を原子力安全・保安院に提出したその日に、保安院は「北陸電力の報告書は妥当」と発表し、石川県・志賀町はともに当日に原子炉起動を了承しています。また、この件に関して原子力安全委員会に報告されたのは、原子炉起動後の2月7日でした。これが「国による厳格な検査」、「保安院と安全委員会によるダブルチェック」の実態なののでしょうか。これでは、「小さな事故の繰り返し、やがて大事故につながることを防げないのではないかと」、地元住民だけでなく、県民からも不安の声があがっています。

また、柏崎刈羽原発7号機でひびの発生が問題になっているハフニウムフラットチューブ型制御棒が、志賀原発でも使用されています。制御棒の動作確認、構造強度に係る健全性や挿入性等の評価はすでに実施されているとはいえ、柏崎刈羽原発7号機では調査済みの46本中28本にひびが確認されており、発生原因については現在まだ調査中です。

このような現状では、原発の危険性をさらに高める「プルサーマル計画」は、到底、認めることはできません。そこで、以上の問題を踏まえて、下記項目について要望します。

記

1. 北陸電力に対して「プルサーマル計画」事前了解願いの撤回を求めること。
2. ハフニウムフラットチューブ型制御棒に関しては、いま問題になっているタイロッド部の“ひび”だけでなく、シース部の“めくれ”や欠損が発生しており、原子力安全・保安院も「設計変更など、より安全性の高い制御棒の設計・製造・調達について検討すべき」（2006年5月31日プレスリリース）と指示していることを踏まえ、北陸電力に対して使用中止を求めること。
3. 3月11日から開始される2号機の定期点検にあたっては、今回あきらかになったような「配慮に欠ける」工事や点検が行なわれることのないよう、点検項目、工事方法等の抜本的見直しを北陸電力に求めること。

以上